

95の産業遺産 一覽

INDEX

62P	【曾於市】 ⑧0 集成館製蒸気機関	54P	【日置市】 ⑤9 大田発電所	42P	③1 吉野薬園跡	28P	【鹿児島市】 ① 仙巖園
	【垂水市】	55P	⑥0 南京皿山窯跡		③2 田上水車館跡	29P	② 琉球館跡
63P	⑧1 牛根造船所跡		⑥1 薩摩焼絵付図面	43P	③3 永吉水車館跡		③ 電信使用の地碑
	【奄美市】		⑥2 吉利御仮屋跡		③4 鹿児島紡績所跡		④ 鶴灯笼
	⑧2 金久白糖製造工場跡	56P	⑥3 御定式窯跡		③5 旧鹿児島紡績所技師館(異人館)	30P	⑤ 滝之上火薬製造所跡
	⑧3 蘭館山		【南九州市】	44P	③6 紡績機		⑥ 谷山作硝局跡
	【さつま町】		⑥4 穎娃砂鉄採取地	45P	③7 祇園之洲台場跡	31P	⑦ 陸軍火薬庫跡
64P	⑧4 永野金山		⑥5 厚地松山製鉄遺跡		③8 新波止砲台跡		⑧ 中村製薬館跡(紅ガラス製造所跡)
	⑧5 鉄橋跡(永野金山)	57P	⑥6 厚地松山製鉄遺跡出土品	46P	③9 大門口砲台跡	32P	⑨ 集成館ガラス工場跡
65P	⑧6 観音滝発電所跡		⑥7 知覧塩屋砲台跡		④0 天保山砲台跡		⑩ 開成所跡
	【南大隅町】		⑥8 穎娃別府砲台跡	47P	④1 横山(袴腰)砲台跡	33P	⑪ 造士館跡
	⑧7 佐多旧薬園	58P	⑥9 松ヶ浦砲台跡		④2 烏島砲台跡		⑫ 製煉所(開物館)跡
66P	⑧8 根占原台場跡		【始良市】	48P	④3 沖小島砲台跡	34P	⑬ 錫山
	⑧9 瀬脇砲台跡		⑦0 金山橋		【指宿市】		⑭ 錫山関連資料
67P	⑨0 伊座敷砲台跡	59P	⑦1 鍋倉製鉄所跡	49P	④4 河野覚兵衛屋敷跡	35P	⑮ 薩英戦争本陣跡(千眼寺跡)
	【肝付町】		⑦2 森山家住宅土蔵・主屋・旧作業場		④5 第8代濱崎太平次の墓		⑯ 薩英戦争記念碑
	⑨1 内之浦砲台跡		【南さつま市】	50P	④6 濁口の船溜り		⑰ 火の河原跡
	【錦江町】	60P	⑦3 坊津白糖製造工場跡		④7 宮ヶ浜港防波堤	36P	⑱ 鑄製方跡
	⑨2 松崎砲台跡		⑦4 久志砲台跡	51P	④8 指宿邑捍海隄記		⑲ 砲術館跡
	【龍郷町】		【枕崎市】		④9 山川火薬製造所跡	37P	⑳ 斉彬陣屋跡
68P	⑨3 瀬留白糖製造工場跡		⑦5 枕崎砲台跡	52P	⑤0 山川薬園跡		㉑ 射場山跡
	【瀬戸内町】		【阿久根市】		⑤1 掘井碑		㉒ 向江船手跡
	⑨4 久慈白糖製造工場跡	61P	⑦6 松木弘安(寺島宗則)旧家		⑤2 鳥越堀切	38P	㉓ 旧集成館機械工場
	【字検村】		【いちき串木野市】	53P	⑤3 五人番所跡(砲台跡)		㉔ 磯造船所跡
	⑨5 須古白糖製造工場跡		⑦7 留学生渡欧の地		【霧島市】	39P	㉕ 反射炉跡
	【資料編】		【薩摩川内市】	54P	⑤4 敷根火薬製造所跡		㉖ 高炉跡
69P	産業遺産を巡るモデルコース	62P	⑦8 久見崎軍港跡		⑤5 敷根火薬製造所の石臼	40P	㉗ 磯窯跡
72P	産業遺産の分布マップ		【志布志市】		⑤6 山ヶ野金山		㉘ 関吉の疎水溝
			⑦9 志布志砂鉄採取地		⑤7 山ヶ野金山関連資料	41P	㉙ 寺山炭窯跡
					⑤8 水天淵発電所		⑳ 落とし



- 鹿児島市小川町3-10(長田中学校内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 〓 無
- 鹿児島市電「水族館口」電停下車徒歩4分
- 鹿児島市営バス「水族館前」「水族館口」「県民交流センター前」バス停下車徒歩4分
- 長田中学校の校庭の片隅に記念碑が建設されています。見学には学校の許可が必要です。

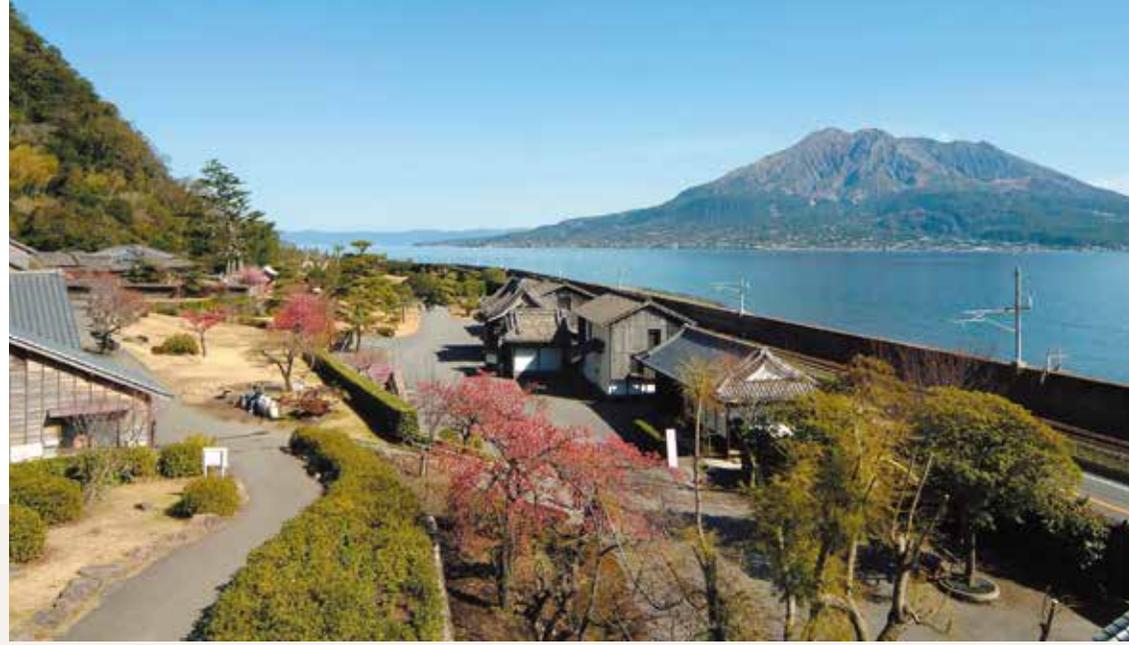
MAP 73P C-2



薩摩藩の外交の場 貿易の拠点となった琉球館跡

② 琉球館跡

毎年、琉球王国では春になると使節の派遣を行い、派遣された使節は琉球館に一年間滞在しました。また、島津家にめでたいこと、逆に災いなどが起きたときは特使が派遣されていました。琉球館跡は琉球貿易の取引場所でもあり、薩摩藩の外交、貿易の拠点として重要な施設でした。1840年代、琉球にイギリス・フランス艦が相次いで来航し、強大な軍勢力をおわせながら通商を迫りました。これに脅威を抱いた薩摩藩は、ヨーロッパの科学技術を導入して軍備の強化を図りました。



『電線』尚古集成館蔵

- 鹿児島市照国町19(探勝園内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 〓 有(照国神社駐車場、戊辰駐車場)
- JR鹿児島中央駅から徒歩で20分
- 鹿児島市電「天文館通」電停下車徒歩5分
- バス「天文館」バス停下車徒歩5分

MAP 73P A-4



島津斉彬が取り組んだ 電信実験の成功を伝える記念碑

③ 電信使用の地碑

1857年、蘭学者の松木弘安(寺島宗則)、中原鑑介は、鹿児島城本丸と二ノ丸庭園探勝園の間に電線を引き、電信実験に成功しました。実験成功後は、地雷や水雷の起爆装置に電気技術を応用。市来四郎は仙巖園で地雷の爆破実験をしたときの様子を「電気装置で通電したところ、(爆薬が)激しく爆発し振動で山々が揺れた」と書き残しています。また、電信実験に携った寺島宗則は、電信の重要性を感じて、維新後に国内の電信網の整備や万国電信条約への加盟に尽力しました。現在、探勝園は公園として整備され、電信使用の地碑が建てられています。



『鶴灯籠』尚古集成館提供

- 「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である旧集成館の遺構の一つです。
- 国指定名勝
- 鹿児島市吉野町9700-1(仙巖園内)
- TEL:099-247-1551(仙巖園代表)
- 〓 有(乗用車:1日300円、バス:1日1,000円)
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC~国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビューで約30~50分「仙巖園前」バス停下車すぐ

MAP 72P C-4



※営業日等の情報は、右記「仙巖園」をご覧ください

日本初のガス灯実験 仙巖園にある鶴の姿の灯籠

④ 鶴灯籠

鹿児島の名勝である仙巖園には多くの灯籠がありますが、なかでも一番有名なものは鶴灯籠です。「鶴が羽根を伸ばした姿」に見えることから鶴灯籠と呼ばれています。島津斉彬は、蘭学者である松木弘安(寺島宗則)らに石炭ガスの製法やガス灯に関する研究を命じました。そして、1857年に仙巖園の浴室近くにガス室を設け、鶴灯籠でガス管を引いてガス灯の点火実験を成功させます。ガス灯自体は1872年に横浜の馬車道に設置されたものが日本初といわれていますが、鹿児島ではそれよりもずいぶん早く、日本で初めてガス灯実験に成功していたことになります。



近代化事業の実験の場にもなった島津家の別邸・仙巖園

① 仙巖園

【営業日】通年 【営業時間】9:00~17:00
 【定休日】年中無休※鹿児島マラソン開催日を除く
 【入場料金(尚古集成館と共通チケット)】個人:大人・高校生以上1,000円、小中学生500円、団体(20名以上):大人・高校生以上900円、小中学生450円、団体(100名以上):大人・高校生以上850円、小中学生400円 ※乳幼児無料

- 国指定名勝
- 鹿児島市吉野町9700-1
- TEL:099-247-1551(仙巖園代表)
- 〓 有(乗用車:1日300円、バス:1日1,000円)
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC~国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビューで約30~50分「仙巖園前」バス停下車すぐ

MAP 72P C-4



350年以上の歴史がある島津家の別邸は、1658年に島津光久が景勝地であった巖に造宮。その後、島津重豪をはじめとする島津家歴代が整備などを行いました。桜島を築山に錦江湾を池に見立てた雄大な借景庭園で、琉球国王から贈られた望嶽楼など中国文化の影響も。また、藩における迎賓館として、鹿児島を訪れた幕臣の勝海舟やカッテンディーネらオランダ人一行、イギリスのパークス公使一行の接待も行われました。隣接地には島津斉彬が日本最初の洋式工場群「集成館」を築き、一帯では薩摩焼の研究や耐火レンガの製造、ガス灯や地雷の実験なども実施されています。

園内には、オランダの技術書をもとに建設された大砲の砲身をつくる反射炉跡、隣接して鉄鉱石や砂鉄などから鉄を大量につくる高炉跡、洋式船や蒸気機関の修理・部品製造を行った旧集成館機械工場などの産業遺産関連の近代化遺産が、現在も遺されています。



西南戦争が勃発 きっかけは火薬倉庫

⑦ 陸軍火薬庫跡

明治初年に薩摩藩が設置した火薬庫は、廃藩置県後に陸軍の所管になりました。征韓論争に敗れた西郷隆盛が帰郷後、鹿児島は次第に反政府的雰囲気になります。すると鹿児島にある大量の弾薬、スナイドル銃弾が危険なものと考えられるようになります。1877年1月、明治政府は武器弾薬を輸送船へと積み込もうと試みましたが、私学校生徒が激怒します。1月29日の夜に火薬庫の1棟を襲撃の上、破壊して弾薬6万発を強奪。残った火薬庫も翌日には襲撃されました。事態の収拾が不可能とみた西郷隆盛は、2月15日に熊本へ出兵し西南戦争がはじまりました。

- 鹿児島市草牟田1丁目9-26付近
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- ② 無
- 鹿児島市営バス「草牟田」バス停下車徒歩4分
- 火薬庫は、この碑より100m高台に3棟設置されていました。

MAP 72P B-4



『薩州鹿児島見取絵図』武雄鶴島家資料 武雄市蔵

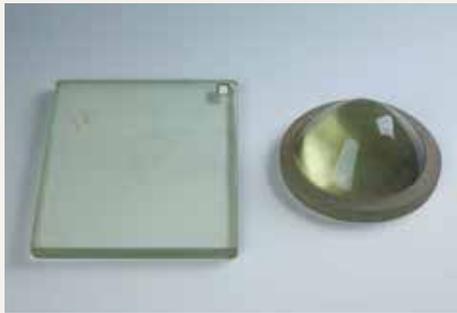
幕末の日本最大水車を使用した火薬製造所

⑤ 滝之上火薬製造所跡

- 鹿児島市稲荷町 滝之上排水処理場付近
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- ② 無
- 南国交通バス「稲荷町」バス停下車徒歩10分
- 滝之上火薬製造所跡までの道は整備された公道ではなく、幅員狭小で車のすれ違いが困難であるため、移動の際は注意が必要です。



薩摩藩は、鹿児島市唐湊に火薬製造所を設け、人力で火薬を製造していました。しかし、たびたび事故が起きたため、1818～1830年頃、新たに稲荷川の近くに滝之上火薬製造所を設置。水車を用いて火薬製造を始めました。1849年には製造法をヨーロッパ式にして、火薬を製造するように。維新後は陸軍の所管となり、1877年に西南戦争がはじまると西郷軍が火薬・弾薬製造に利用しました。同年3月、鹿児島に来航した海軍兵が弾薬製造器械を搬出、さらに陸軍部隊が砲撃を加えて爆破・炎上。水路跡や頑丈な石壁などが残っていましたが、平成5年の鹿児島大水害に伴う工事でその大半が姿を消しました。



『半球体ガラス・板ガラス』尚古集成館蔵

薩摩藩の化学薬品研究製造施設・中村製薬館

⑧ 中村製薬館跡 (紅ガラス製造所跡)

中村製薬館は化学薬品などの研究・製造施設で、工場敷地内にはガラス工場があり、江戸から招かれたガラス職人の四本亀次郎が薬瓶や船舶用の板ガラス、半球体ガラスなどの製造を行っていました。1851年、島津斉彬はガラス製品の輸出商品に育て上げるため、四本にガラス工芸品の素材となる紅ガラスの製造を命じます。四本は藩の蘭学者と協力し、数百回の実験を行い紅ガラスの製造に成功。当時、斉彬が紅ガラスの薩摩切子を親しい大名へ贈っていたという記録も残っています。今も板ガラスと半球体ガラスは、尚古集成館に展示されています。

- 鹿児島市鴨池2丁目19-17(鴨池福祉館)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- ② 無
- 鹿児島市電「鴨池」電停下車徒歩1分
- 鹿児島交通バス「鴨池」バス停下車徒歩5分

MAP 72P B-5



火薬製造の原料となる 大規模な硝石場

タニヤマサクショウキョクアト

⑥ 谷山作硝局跡

島津斉彬は蘭学者の石河確太郎に人工硝石のつくり方を調べさせ、谷山の中之塩屋(現小松原町)に大規模な硝石場を造りました。1863年には永田川近くに移転。広さは約46,500㎡、作業場は30軒あり、敷地の周囲にはカラタチやシュロ、松の木が植えられていました。敷地内には関係者以外は立ち入ることができなかったと伝えられています。また、他藩の見習い藩士を受け入れており、技術の伝習も行っていました。しかしながら、西南戦争の際に、官軍によって焼き払われ焼失してしまいました。

- 鹿児島市小松原2丁目38付近
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- ② 無
- 鹿児島市営バス「谷山駅前」バス停下車徒歩10分
- 資産名称は「谷山作硝局跡」ですが、説明板及び標柱等では「煙硝倉跡」という名称で一貫しており、「谷山作硝局跡」という名称は使われておりません。

MAP 72P B-5





あの西郷隆盛などを輩出した 薩摩藩の藩校「造士館」

⑪ 造士館跡

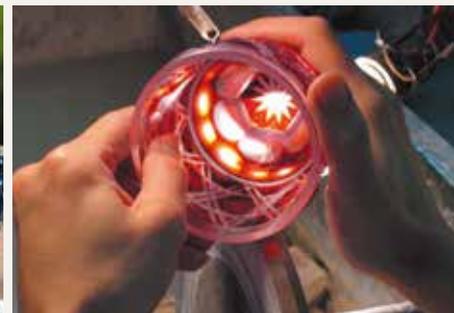
1773年に島津重豪が創設した藩校。隣接地には諸武芸を学ぶ演武館や、医学を学ぶ医学院も創設されました。島津斉彬は「学問は実際に世の中に活用され、人の生きる道に役に立つようにすべき」との理念を掲げて造士館の教育改革に着手。斉彬は造士館で日本の古典や歴史、西洋科学など幅広い学問を学べるようにし、新時代を担う人材を育成しました。造士館では、西郷隆盛や大久保利通、東郷平八郎など、幕末から明治期に活躍した藩士らが学びました。

- 鹿児島市山下町4-1(中央公園内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有(鹿児島中央地下駐車場)
【営業時間】7:00~24:00
【時間料金】30分150円
- JR鹿児島中央駅から徒歩で20分
- 鹿児島市電「天文館通」電停下車徒歩4分
- バス「天文館」バス停下車徒歩4分

MAP 73P B-4



『薩摩切子』尚古集成館提供



『薩摩切子(石掛け)』尚古集成館提供

⑨ 集成館ガラス工場跡

- 仙巖園(薩摩切子工場)
- 《営業日》通年
- 《見学時間》9:00~16:30
- 《定休日》毎週月曜日、第3日曜日、祝日の場合は翌日、翌日曜日

- 鹿児島市吉野町9688-24
- TEL:099-247-8490(職芸芸館)
- 有(乗用車:1日300円、バス:1日1,000円)
- JR鹿児島中央駅から徒歩で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC~国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビューで約30~50分「仙巖園前」バス停下車徒歩3分
- 幕末・明治に建設されたガラス工場に関連する遺構は確認されていません。

MAP 72P C-4



薩摩切子が生産された 歴史と伝統のあるガラス工場

島津斉彬はガラス製品を量産するため集成館にガラス工場を建設。1858年に集成館を見学したオランダ海軍の軍医ポンベはおよそ100名もの職人が働き、贅沢品から日用品まで幅広く製造していたと記録しています。1858年、斉彬の死に伴って工場は縮小。1877年頃にはガラスの製造が途絶えます。1986年、島津興業が跡にガラス工場を建設し薩摩切子の製造を開始しました。集成館事業が行われていた場所で現在も操業しているのは薩摩切子製造のみ。100年以上の時を経て復活した薩摩切子の製造を間近に見ることができます。



反射炉のひな型をつくった薩摩藩の総合研究施設

⑫ 製煉所(開物館)跡

製煉所は、集成館事業に必要な理化学実験を行う総合研究施設。鹿児島城内に設置され、藩の蘭学者が洋書をもとにさまざまな研究や実験を行いました。ここで行われた実験には、反射炉のひな型(ミニチュア)製作や金属分析、酸類、紅ガラス、アルコール製造などがあります。そして、実験で実用化のめどが立つと、集成館や中村製薬館で生産が行われる仕組みになっていました。兵士が戦時に食べる野戦食として蒸餅(パン)の製造も行われ、島津斉彬はこれを試食したといわれています。製煉所は1857年、名称が開物館に変更されました。

- 鹿児島市城山町7
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有(黎明館駐車場)
- 鹿児島市電「市役所前」電停下車徒歩5分
- バス「市役所前」バス停下車徒歩5分
- カゴシマシティビュー「薩摩義士碑前」バス停下車すぐ

MAP 73P B-3



薩摩藩の近代化に貢献する 人材を育成する洋学校「開成所」

⑩ 開成所跡

開成所はもともと島津斉彬が計画し、薩英戦争後、島津忠義や小松帯刀らによって藩士がヨーロッパの語学・科学技術を学ぶために設立されました。石河確太郎や松木弘安(寺島宗則)などの西洋学の第一人者が教授となり、英語やオランダ語のほか、砲術、数学、物理、医学、測量術、航海術などの授業が行われました。60~70名の学生のほとんどが、藩校である造士館などから選ばれた成績優秀な人材でした。学生には給与が米で支給されていて、藩の将来を担うエリートを育成する学校でもありました。1865年に派遣された薩摩藩英国留学生は、開成所の優秀な学生を中心に選出されています。

- 鹿児島市小川町19-3付近(民有地)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有 無
- 鹿児島市電「水族館口」電停下車徒歩1分

MAP 73P C-3





- 鹿児島市常盤町2丁目4-5付近(民有地)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 無
- 南国交通バス「西田小学校前」バス停下車徒歩5分
- 敷地内は立ち入り禁止です。

MAP 72P B-4



藩主が指揮を執った 薩英戦争の本陣

15 薩英戦争本陣跡(千眼寺跡)

千眼寺は禅宗の一派である黄檗宗の寺です。1805年、島津重豪が荒田村から現在地に移築したといわれています。薩英戦争が勃発した際には、海に近い鹿児島城がイギリス軍の大砲の射程圏内となるため、海から離れた千眼寺に本陣が置かれました。そして、島津久光、忠義親子がここから藩士たちの指揮を執りました。

薩英戦争の歴史を今も粛々と伝える

16 薩英戦争記念碑

薩英戦争の歴史を伝える記念碑は、1917年に有志によって物産陳列所構内(現・県立博物館敷地)に建設されました。そして、1927年の現・県立博物館建設にともなって祇園之洲公園に移転します。記念碑の文字は、薩摩出身の第4代総理大臣・松方正義によるもの。碑の頂上は、島津家の御馬標一本杉が表現されています。

- 鹿児島市清水町26(祇園之洲公園内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有(石橋記念公園駐車場)
- JR・鹿児島市電鹿児島駅から徒歩15分
- バス「水族館前」バス停下車徒歩15分
- カゴシマシティビュー「石橋記念公園前」バス停下車徒歩5分

MAP 73P F-1



馬で鉄を運搬し集成館へ供給した 製鉄炉

ヒノコラト

17 火の河原跡

幕末に操業した製鉄集落の跡。火の河原は「ひのこら」と呼ばれ、火は木炭が燃える火、河原は溶けた鉄が流れ出す様子を言い表しています。集落の人々は製鉄と木炭の製造のために万之瀬川下流の川辺周辺から移住してきたといわれています。そして藩の管理の下、喜入の前之浜などから砂鉄を選び、炉の送風に水車動力を活用して製鉄を行いました。製鉄炉は火の河原川沿いに設置され、生産された鉄は馬によって集成館まで運ばれたといわれています。

- 鹿児島市平川町6217-2
(福平小学校火之河原分校跡)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 無
- JR鹿児島中央駅から車で60分

MAP 72P A-6



薩摩の近代化を支えた錫鉱山

18 錫山

1655年、島津家の家臣・八木主水佑元信によって発見されたのが錫鉱山です。1701年には薩摩藩の経営となり、1853~1854年には斉彬の命で湧上坑において、約14万8千斤(約89トン)もの錫を産出したといわれています。労働者は、尾張(愛知県)や美濃(岐阜県)、伊予(愛媛県)などの遠方からも多数集められており、1854年頃には約300人が働いていました。錫山には藩の奉行所跡や、鉱山の神を祀った大山祇神社、錫を採掘した坑道跡など、当時の盛況を偲ばせる数多くの遺構が残っています。

- 鹿児島市下福元町11631付近(錫鉱発見の地石碑)
(民有地)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 無
- 鹿児島交通バス「錫山」バス停下車
- 錫山に関する文化財は複数箇所に分かれ駐車場が設置されていませんので、見学の際の留意事項等はQRコードでご確認ください。

MAP 72P A-6



『錫山坑区ノ景』尚古集成館蔵



14 錫山関連資料

- 鹿児島市下福元町9856(錫山小中学校内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有(錫山小中学校)※要許可
- 鹿児島交通バス「錫山」バス停下車徒歩2分
- 学校内の展示を見学する際は、事前に学校に相談してください。

MAP 72P A-6



歴史を今に伝える 錫鉱山の関連資料群

今も錫山の歴史を伝える錫鉱山関連資料が残っています。錫山小中学校では、錫鉱石や採掘に使われていた道具、鉱石の破砕に使われていた石臼などを見学することができます。また、学校の近くには女郎墓が遺っており、当時、遊郭があったことを今に伝えています。



- 鹿児島市下荒田2丁目31-15(天保山中学校内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 無
- 鹿児島市営バス「天保山」バス停下車徒歩1分
- 天保山中学校内にあるため、中学校内部には許可がなければ入ることはできません。道路側から確認できる位置に標柱及び説明板が設置されています。

MAP 72P B-5



島津斉彬が指揮を執った 軍事演習の陣屋

20 斉彬陣屋跡

島津斉彬が軍事演習を指揮した陣屋跡一帯は、天保山訓練場と呼ばれていました。ここでは騎兵や砲兵などの訓練を実施。1858年、次期将軍に徳川慶福(後の家茂)を推す彦根藩主・井伊直弼が大老に就任し、一橋家の徳川慶喜を推していた斉彬等一橋派の敗北が決定的となりました。斉彬は事態打開を図るため藩兵3,000名を率いて上洛を決意します。そして同年7月8日、ここで城下の各隊を集めて大演習を行いました。その後、斉彬は体調を崩して7月16日に急死します。



- 鹿児島市小松原1丁目68(射場前公園内)
(鹿児島市、民有地)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 無
- 鹿児島交通バス「中塩屋」バス停下車徒歩5分

MAP 72P B-5



当時は砂浜にあった 薩摩藩の洋式砲術の演習場

イバンヤマアト

21 射場山跡

1846年8月28日、島津斉彬が現地に残る築山から、洋式砲術の演習を視察したといわれています。その日の演習は真夏の炎天下の中、大人数で大砲を押し移動させる実戦さながらの、大がかりなものであったと伝えられています。演習の責任者は成田正右衛門が務めていました。現在は、海側が埋め立てられ公園となっていますが、当時は砂浜でした。

島津斉彬が建設した 薩摩藩・最後の軍港

ムカエフナテアト

22 向江船手跡

薩摩藩は軍船を管理するための船手を「鹿児島・久見崎・加治木」の3か所に設置。鹿児島の船手は稲荷川沿い(現・春日神社付近)から、1657年に武村の甲突川沿い(現・船魂神社付近)に移転しました。その後、船の大型化にともなって甲突川の河口部に向江御船手がつくられ、その周辺には多くの船頭や水夫、船大工が暮らしていました。向江御船手は洋式船の建造には狭かったため、島津斉彬は新たに磯造船所や桜島瀬戸村造船所、牛根造船所を建設。船手に勤めていた水夫や船大工は、磯造船所に移って洋式船の建造や乗組員として活躍しました。



向江船手略図『薩藩海軍史』

- 鹿児島市下荒田1丁目41-12付近(民有地)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 無
- 鹿児島市営バス「天保山(中学校前)」バス停下車徒歩1分

MAP 72P B-4



『薩州鹿児島見取絵図』武雄鍋島家資料 武雄市蔵

最初の軍事工場は青銅砲の製造からスタート

イセイホウアウト

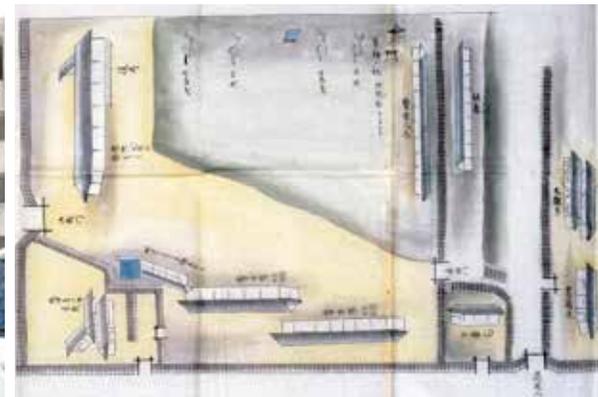
18 鑄製方跡

- 鹿児島市浜町
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有(石橋記念公園駐車場)
- カゴシマシティビュー
「石橋記念公園前」バス停下車
- 遺構は確認されていません。

MAP 73P E-1



軍事工場の鑄製方では、長崎でヨーロッパの砲術を学んだ成田正右衛門や、弟子の竹下清右衛門らが青銅砲などの製造に取り組みました。1852年、島津斉彬は鑄製方の大砲製造部門を集成館に移し、鉄製大砲生産を開始。鑄製方では、その後もライフル銃などの製造が続けられました。1857年、鑄製方を視察したオランダ海軍将校カッテンディーケは「薩摩のライフル銃は鉄の性質が良いので優秀である」と評価しています。また、この製銃部門も1860年に集成館に合併。鑄製方跡は石橋記念館と隣接するゴルフ練習場周辺と推測されています。



『薩州鹿児島見取絵図』武雄鍋島家資料 武雄市蔵

19 砲術館跡

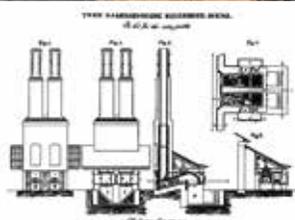
藩士たちが洋式砲術を学ぶ 訓練施設

1837年のモリソン号事件で、和式砲術の威力不足を痛感した薩摩藩。鳥居平七を長崎の洋式砲術家・高島秋帆のもとに派遣して砲術を学ばせました。1842年、藩は洋式砲術を「御流儀砲術」と名付けると、鳥居を成田正右衛門と改名させて砲術師範に任命します。そして、1847年に砲術館を設置。藩士たちに洋式砲術を訓練させました。

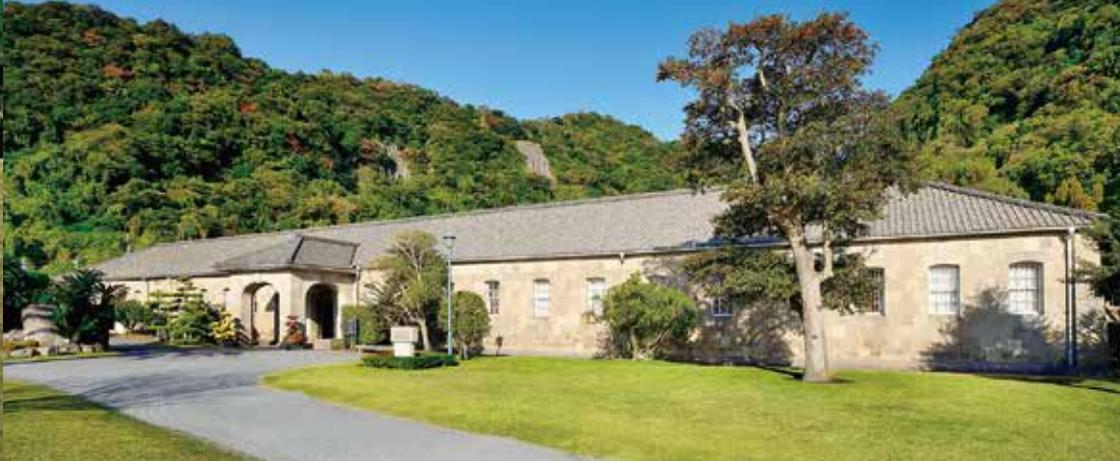
- 鹿児島市大町6-8付近
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 無
- カゴシマシティビュー
「今和泉島津家本邸跡(篤姫誕生地)」前
バス停下車徒歩1分

MAP 73P D-1





オランダ陸軍少将ヒューゲニンの反射炉図『薩藩海軍史』



大砲の砲身をつくるための金属溶解反射炉

25 反射炉跡

オランダの技術書をもとに建設された、大砲の砲身をつくる施設。炉内部の天井や、壁に炎と熱を反射させて鉄を溶かすため反射炉と呼ばれました。反射炉の建設は製煉所で小型のひな型をつくり、鉄の溶解実験からスタート。実験は難航しましたが、斉彬は「西欧人も人なり、佐賀人も人なり、薩摩人もまた人なり（西欧人や佐賀人にできた反射炉製造が薩摩人にできないわけではない）」と藩士らを励まします。1852年に礎で建設された1号炉の建設は失敗に終わりました。2号炉が1857年に完成すると、鉄製砲造にも成功しました。ただし、2号炉も薩英戦争で破壊されたため、現存するのは2号反射炉の基礎部分のみです。

■ 仙巖園
《営業日》 通年 《営業時間》 9:00～17:00
《定休日》 年中無休※鹿児島マラソン開催日を除く
《入場料金(尚古集成館と共通チケット)》 個人: 大人・高校生以上1,000円、小中学生500円、団体(20名以上): 大人・高校生以上900円、小中学生450円、団体(100名以上): 大人・高校生以上850円、小中学生400円 ※乳幼児無料

- 国指定史跡
- 鹿児島市吉野町9700-1(仙巖園内)
- TEL:099-247-1551(仙巖園代表)
- 有(乗用車: 1日300円、バス: 1日1,000円)
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC～国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビュー約30～50分「仙巖園前」バス停下車すぐ



MAP 72P C-4



『薩州鹿児島見取絵図』武雄鍋島家資料 武雄市蔵

- 「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である旧集成館の遺構の一つです。
- 国指定史跡
- 鹿児島市吉野町9700-1(仙巖園内)
- TEL:099-247-1551(仙巖園代表)
- 有(乗用車: 1日300円、バス: 1日1,000円)
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC～国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビュー約30～50分「仙巖園前」バス停下車すぐ

MAP 72P C-4



大量の鉄を生産するヨーロッパ式の製鉄炉

26 高炉跡

鉄鉱石や砂鉄などから鉄を大量につくる製鉄施設は、反射炉と同様にオランダの技術書をもとに建設されました。高炉の高さは約7.2m。高炉による製鉄は炉の温度を1200～1500度に保つ必要があるため、水車動力を活用して大量の風を送風、炉内を高温に保ちました。水車は関吉の疎水溝からの導水を活用して回転させます。高炉は薩英戦争によって破壊されましたが、平成18年の発掘調査で水車に水を供給したと思われる水路跡が発見されています。



現存する日本最古の西洋式機械工場

23 旧集成館機械工場

洋式船や蒸気機関の修理、部品製造を行った集成館の機械工場。この石造りの建物の責任者は、技術者・竹下清右衛門でした。竹下は長崎製鉄所などの西洋式の建物を参考に工場を建設。そのため屋根を支える小屋組が神社建築によく見られる亀腹石であるなど、日本人だけの力で苦労してつくった様子がうかがえる建物になっています。工場内にはオランダやイギリスから輸入された最新式の機械を設置。現在は博物館(尚古集成館)として島津家や集成館事業の歴史を学ぶことができます。

■ 尚古集成館
《営業日》 通年 《営業時間》 9:00～17:00
《定休日》 年中無休※鹿児島マラソン開催日を除く
《入場料金(名勝仙巖園と共通チケット)》 個人: 大人・高校生以上1,000円、小中学生500円、団体(20名以上): 大人・高校生以上900円、小中学生450円、団体(100名以上): 大人・高校生以上850円、小中学生400円 ※乳幼児無料

- 国指定重要文化財
- 鹿児島市吉野町9698-1
- TEL:099-247-1511(尚古集成館)
- 有(乗用車: 1日300円、バス: 1日1,000円)
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC～国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビューで約30～50分「仙巖園前」バス停下車すぐ
- 尚古集成館本館は耐震・リニューアル工事のため2022年5月9日(月)～2024年9月末まで休館予定



『反射炉模型』尚古集成館提供

MAP 72P C-4



ヨーロッパ式の船を造船した磯海岸にある造船所

24 磯造船所跡

ヨーロッパ式の船を建造するために設置された造船所は、磯海岸にありました。島津斉彬は、藩主になると長崎からヨーロッパ式の船の技術書を取り寄せ、ヨーロッパ式の船の建造を開始。この船の建造は、御船手で働いていた地元の人材を活用して大量の風を送風、炉内を高温に保ちました。完成した船は「伊呂波丸」と呼ばれ、全長は約40mで外国船と同じ3本マストの船です。内部はヨーロッパ式で、外部は幕府の大船建造の禁に違反しないように和船に。磯造船所では、蒸気船の研究も行われていました。



- 鹿児島市吉野町9688-17(民有地)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 無
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC～国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビュー約30～50分「仙巖園前」バス停下車徒歩4分
- 鹿児島交通バス「異人館前」バス停下車徒歩1分

MAP 72P C-4





集成館事業のための白炭をつくった炭窯

29 寺山炭窯跡

集成館事業で使用する白炭を増産するために建設した寺山炭窯の跡。島津斉彬は山元藤助を紀州(和歌山)に派遣して炭焼法を学ばせました。そして、木炭の材料となるシヤカシが豊富な寺山の山中に炭窯を築きました。石炭を産しなかった薩摩藩において、炭窯は斜面を造成して凝灰岩を積み上げて建設されました。その大きさは国内最大級でした。火力の強い白炭は、集成館で高炉や反射炉、薩摩切子製造の燃料として使用。1858年に建てられた炭窯の碑には、斉彬に仕えた国学者で歌人でもある八田知紀によって、2基の炭窯が完成し3基目が建設中である状況や、斉彬が「大きな木だけを伐れ」と命じた旨が彫り込まれています。



- 国指定史跡
- 鹿児島市吉野町10710-68
- TEL:099-227-1940(鹿児島市教育委員会)
- 有
- JR鹿児島中央駅から車で約45分
- JR鹿児島中央駅から南国交通バス(宮之浦団地線)で約35分
- 「三州原学園前」バス停下車徒歩約20分
- 現在復旧作業中です。
- 詳しくは「鹿児島市 寺山炭窯跡」を検索してください。

MAP 72P C-3



集成館に動力となる 水を“落とし”た分水地



『薩州鹿児島見取絵図』武雄綱島家資料 武雄市蔵

30 落とし

関吉の取水口から吉野台地に沿って7kmほど下ったところに位置する分水地。取水口から水路によって運ばれた水は、ここで磯川と立体交差して仙巖園へと運ばれました。「落とし」という地名は、“ここから水を磯邸に落とした”ということで名付けられたといわれています。

- 鹿児島市吉野町9528付近(民有地)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有
- 南国交通バス「落し」バス停下車徒歩1分

MAP 72P C-4



耐火レンガを焼いた薩摩焼の窯跡

27 磯窯跡

耐火レンガの製造や薩摩焼の技術改良を行うために建設された登窯です。朴正官らは、「金欄手薩摩」と呼ばれる金を多用した、華やかな薩摩焼の研究を行いました。さらに、ヨーロッパ式の食器の生産も試みられたといわれています。窯は石垣の上に建設されており、10~11室の焼成室をもつ大きな窯であったと推測されています。これらは集成館の東側にある丘陵を造成して建設されました。窯本体は薩英戦争によって破壊されてしまいます。現在は石垣の一部が残されています。

※営業日等の情報は、28P「仙巖園」をご覧ください。



『耐火レンガ』尚古集成館蔵

- 「明治日本の産業革命遺産」の構成資産である旧集成館の遺構の一つです。
- 国指定名勝
- 鹿児島市吉野町9700-1(仙巖園内)
- TEL:099-247-1551(仙巖園代表)
- 有(乗用車:1日300円、バス:1日1,000円)
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC~国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビューで約30~50分「仙巖園前」バス停下車すぐ

MAP 72P C-4



集成館事業の動力！水の取水施設

28 関吉の疎水溝

関吉の疎水溝は、江戸初期に農業用水のために建設。そして1722年、島津吉貴が仙巖園へ水を供給するために磯地区まで延長します。その後、集成館では高炉や鑽開台の動力源として水車を必要としましたが、磯地区には大きな川がないため、島津斉彬は関吉の疎水溝の改修や整備を実施。取水口では川幅の狭い場所を利用し、江戸の土木技術により水位をかさ上げして水路に水を引き込みました。現地には今も当時の職人が岩盤を加工した痕跡などが残っています。現在の取水口は、幕末の取水口が大正時代の大洪水で流されたため上流部に移設したものです。



- 国指定史跡
- 鹿児島市下田町1263先
- TEL:099-227-1940(鹿児島市教育委員会)
- 有(せきよしの物産館(10台)、稲音館敷地を活用した駐車場(5台))
- JR鹿児島中央駅から車で約30分
- JR鹿児島中央駅から南国交通バス(本城線・緑ヶ丘団地線・伊敷団地線)で約30分
- 「関吉の疎水溝入口」バス停下車徒歩約8分
- 見学の際は足下に十分注意してください。
- 大正時代の取水口は非公開となっています。

MAP 72P B-4





日本初！蒸気機関動力によるヨーロッパ式の機械紡績所

34 鹿児島紡績所跡

薩摩藩英国留学生とともにイギリスに渡った、藩使節の五代友厚や新納久脩。彼らはプラット・ブラザーズ社に紡績工場の設計を依頼します。そして、機械を発注し、技師派遣も依頼しました。工場はプラット・ブラザーズ社の設計に手を加え、地元の凝灰岩を使った石造りの建物。現場では、司長ホームを含む7名のイギリス人技師が200名余りの職工に技術指導を行いました。原料の綿花は関西方面で買付けたもので、これを紡績工場で白木綿や、緞などに加工。その多くは関西方面で販売されていました。

- 国指定史跡
- 鹿児島市吉野町9688-25付近
- TEL:099-247-1551(仙巖園代表)
- 有(異人館の駐車場を利用)
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC～国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビュー「仙巖園前」バス停下車徒歩2分
- 約30～50分「仙巖園前」バス停下車徒歩2分

MAP 72P C-4



鹿児島紡績所の指導者イギリス人技師たちの宿舍

35 旧鹿児島紡績所技師館(異人館)

日本で最初期の木造西洋建築。西欧人たちがアジアなどの植民地によく建設したコロニアル様式の建物です。外見は洋風ですが、屋根裏の小屋組みが和小屋であり、見えないうちに日本の建築技術も用いられていました。イギリス人の指示に基づき、日本人の大工が建てたと考えられています。イギリス人技師は3年契約で来日しましたが、予定より早く約1年で帰国。これは戊辰戦争がはじまったことや、薩摩の職工たちがすでに水車館で機械による作業を経験していたこと、また紡績所で働く人々が武士層であったこと等から技術を短期間で習得できたためといわれています。

建物は、世界文化遺産や技師館の歴史を伝えるガイドンス施設として利用されています。



『鹿児島紡績所イギリス人技師』尚古集成館提供

- 旧鹿児島紡績所技師館(異人館)
- 《営業日》 通年 《営業時間》 8:30～17:30
- 《定休日》 年中無休 《入場料金》 大人200円、小中学生100円
- 団体(20名以上): 大人160円、小中学生80円 ※未就学児無料

- 国指定重要文化財
- 鹿児島市吉野町9685-15
- TEL:099-227-1940(鹿児島市教育委員会)
- 有
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC～国道10号経由)車で40分
- 鹿児島中央駅からカゴシマシティビュー「仙巖園前」バス停下車徒歩5分
- 鹿児島交通バス「異人館前」バス停下車徒歩1分

MAP 72P C-4



段々畑の名残が今も薩摩藩の薬用植物栽培園

31 吉野薬園跡

1779年に設置された薩摩藩の薬用の植物栽培園。広さは約10,000㎡で、上下2段の段々畑に約130種もの植物が栽培されていました。現在、この場所は吉野小学校となっています。校舎と校庭にある段々は、薬園が営まれていたときの段々畑の名残です。薩摩藩には吉野薬園のほか、薩摩半島南部に山川薬園、大隅半島南部に佐多薬園がありました。山川・佐多は温暖な気候を利用して、レイシやリュウガンなど南方系の薬用植物を栽培。吉野薬園は主に、朝鮮人参など温帯産の薬用植物を栽培していました。



- 鹿児島市吉野町2472(吉野小学校内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有
- 南国交通バス「大石様河」バス停下車徒歩3分
- 吉野小学校内に所在し、校外から見えない位置に標柱や説明板が設置されているため、見学の際は、学校側に許可を取る必要があります。

MAP 72P B-4



水車動力で綿布を織る薩摩藩の紡績所

32 田上水車館跡

田上水車館では、田上川の水を利用して直径6m程の水車を回し、その動力で長さ4m、幅2mの大型の機織機を4台動かして綿布を織っていました。田上水車館は郡元水車館の設備を田上川の近くに移転し、建設。島津斉彬もたびたび水車館を訪れては、職工たちを激励したといわれています。この水車館は、集成館に鹿児島紡績所ができる1867年まで操業しました。本来の水車館の位置は、現在の石碑より約150m北西にあったといわれています。



- 鹿児島市田上1丁目11(美尾崎公園内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有
- 鹿児島交通バス「田上」バス停下車徒歩2分

MAP 72P B-4



水車動力で機織機を稼働綿布をつくる紡績所

33 永吉水車館跡

田上水車館とともに1858年に建設された永吉水車館。田上水車館同様、水車の動力によって大型の機織機を動かし、綿布を生産していました。ただし、田上水車館とは異なり、工場の規模など詳細については記録が残っていません。本来の水車館の位置は、石碑よりやや下流にある永吉公民館周辺です。



- 鹿児島市永吉2丁目37-15付近
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有
- 鹿児島交通バス「ハートピアかごしま」バス停下車徒歩2分

MAP 72P B-4





島津斉彬が建設 鹿児島城下の主力砲台

38 新波止砲台跡

鹿児島城下の防衛のために設置された主力砲台。島津斉彬が、1846年頃に建設されていた防波堤を改築し、凝灰岩の切石によって砲台を建設しました。薩英戦争時には、国内最大級の150ポンドボンカノン砲をはじめとする11門の大砲を配備。イギリス艦隊と交戦します。イギリス側の記録には、新波止砲台から発射された砲弾が、旗艦ユーリアス号に命中し、ジョスリン艦長らが戦死したと記されています。1872年、一丁場台場が新波止砲台の南、約87mの地点に築されましたが、1904年の継ぎ足し工事によって現在は2つの堤防がひとつに繋がっています。

- 国指定重要文化財
- 鹿児島市本港新町3-1かごしま水族館付近
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有【県営駐車場】(第1駐車場から第3駐車場)
- 普通車1時間まで無料(以後1時間毎に200円)
- 大型車1時間まで無料(以後1時間毎に640円)
- 鹿児島市営バス「水族館前」・カゴシマシティビュー「かごしま水族館前(桜島桟橋)」バス停下車徒歩3分

MAP 73P D-3



【薩英戦争直前の大門口砲台】 尚古集成館蔵

39 大門口砲台跡

- 鹿児島市南林寺町27-16付近
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有
- 鹿児島市電「いづろ通」電停下車徒歩10分
- 鹿児島市営バス・鹿児島交通バス「大門口」バス停下車徒歩3分

MAP 73P D-7



鹿児島城下の南を防衛した大門口砲台

大門口砲台は、鹿児島城下の防衛のために設置されました。島津斉興による建設後、島津斉彬が1853年に改修を行いました。砲台を改修するにあたって海岸の埋め立てや建物の移設を行い、改修は非常に大規模なものであったといわれています。1863年の薩英戦争のときには8門の大砲が配備され、イギリス艦隊と交戦しました。



【梳綿機】 尚古集成館寄託

36 紡績機

- 尚古集成館
- 《営業日》 通年 《営業時間》 9:00~17:00
- 《定休日》 年中無休 ※ 鹿児島マラソン開催日を除く
- 《入場料金(名勝仙巖園と共通チケット)》 個人: 大人・高校生以上1000円、小中学生500円、団体(20名以上): 大人・高校生以上900円、小中学生450円、団体(100名以上): 大人・高校生以上850円、小中学生400円 ※ 乳幼児無料

- 県指定文化財
- 鹿児島市吉野町9698-1(尚古集成館内)
- TEL:099-247-1511(尚古集成館)
- 有(乗用車: 1日300円、バス: 1日1000円)
- JR鹿児島中央駅から車で約20分
- 鹿児島空港から(始良IC~国道10号経由)車で40分
- JR鹿児島中央駅からカゴシマシティビューで約30~50分「仙巖園前」バス停下車すぐ

MAP 72P C-4



【ローラー磨針機】 尚古集成館寄託



五代友厚らが発注した イギリス製の紡績機械

1867年に竣工した鹿児島紡績所には、薩摩藩英国留学生とともにイギリスに渡った五代友厚、新納久脩が、当時世界最大の紡績会社であったマンチェスターのプラット・ブラザーズ社に発注した紡績機械一式が備え付けられていました。1897年に鹿児島紡績所が廃止されると打綿機や梳綿機などが、山形屋製綿工場(現・カウイ株式会社)に払い下げられ1967年まで使用されていました。同年、紡績100年を記念して、カウイ株式会社から梳綿機とローラー磨針機が尚古集成館に寄託、展示されています。もつれた繊維をといて方向を整える梳綿機や、ローラーに巻かれた針を研磨するローラー磨針機には、「PLATT BROS & Co. OLDHAM. 1866.」という銘板が付いています。



薩英戦争で最も被害のあった 薩摩藩の砲台

37 祇園之洲台場跡

1863年の薩英戦争のときには6門の大砲が配備されていました。イギリスの軍艦1艘が砲台前で座礁し、この軍艦の救援のためにイギリス艦隊は祇園之洲砲台に集中砲火を浴びせます。そのため祇園之洲砲台は、最も被害の大きな砲台に。現地には今も長さ約115m、高さ約1.2mの胸壁が残っています。胸壁は、敵の砲撃から兵士や大砲を守るための土塁で、凝灰岩でつくった石垣の外側を盛土で覆って構築されました。のちの発掘調査によって大砲を据えた砲座の痕跡を発見。薩英戦争後に破壊された胸壁を修復したことが明らかとなっています。

- 県指定史跡
- 鹿児島市清水町26(祇園之洲公園内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有(石橋記念公園駐車場)
- JR鹿児島市電鹿児島駅から徒歩15分
- バス「水族館前」バス停下車徒歩15分
- カゴシマシティビュー「石橋記念公園前」バス停下車徒歩4分

MAP 73P F-1





42 烏島砲台跡

- 鹿児島市桜島横山町
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有(烏島展望所駐車場)
- 桜島港から車で3分

MAP 72P C-4



大正溶岩で桜島と地続きになった砲台

1863年の薩英戦争のときには、3門の大砲が配備され、撤退するイギリス艦隊と交戦します。もともと烏島は桜島沖にある島でしたが、大正3年の桜島大噴火の溶岩によって埋まり、桜島と地続きになりました。現在は展望所になっています。



『イギリス艦隊に砲撃を行う沖小島砲台』尚古集成館蔵

43 沖小島砲台跡

- 鹿児島市指定史跡
- 鹿児島市桜島横山町沖小島
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有
- 沖小島は現在無人島であり、島へ渡る定期船等もないため、現地へ向かうためには船のチャーター等が必要です。

MAP 72P C-5



鹿児島湾に浮かぶ沖小島の臨時砲台跡

沖小島砲台は、桜島沖にある沖小島に設置された砲台。小型の和式砲が15門配備されていて、イギリス艦隊に砲撃を行いました。しかしながら、威力不足のため損害を与えることができませんでした。また、薩英戦争当時は沖小島と燃崎の間には水雷が付設されていたが、イギリス艦隊が通過することなく不発に終わりました。



市指定 薩英戦争で先陣を切って砲撃した天保山砲台

40 天保山砲台跡

- 鹿児島市指定史跡
- 鹿児島市天保山町24(天保山公園内)
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有
- 鹿児島市営バス「共月亭前」バス停下車徒歩3分

MAP 72P B-5



天保山砲台は島津斉興による建設後、島津斉彬が改修して薩英戦争時には11門の大砲が配備されていました。1863年7月2日、イギリス艦隊が薩摩藩の蒸気船を捕獲したことで薩摩藩は開戦を決定。天保山砲台からの砲撃を合図に、各砲台一斉に砲撃を開始します。発掘調査では、敵の砲撃から兵士や大砲を守るための胸壁や、大砲を据えた砲座、船着場などが発見されました。胸壁は凝灰岩でつくった石垣の外側に盛土で覆って構築されており、昇降用の階段が2か所残っています。砲台の海側周辺は、昭和以降の海岸の整備によって埋め立てられて陸地化しました。



『横山砲台とイギリス艦隊』尚古集成館蔵



41 横山(袴腰)砲台跡

- 鹿児島市桜島横山町61-4
- 桜島フェリーターミナル付近
- TEL:099-227-1962(鹿児島市教育委員会)
- 有(桜島港駐車場)
- 桜島港から徒歩すぐ

MAP 72P C-4



薩英戦争で火を噴いた桜島の砲台

桜島フェリーターミナル辺りに説明板が設置されています。1863年の薩英戦争時には、4門の大砲を配備。イギリス艦隊を砲撃すると砲台のすぐ目の前に碇泊していたイギリス艦のパーシューズは驚き、錨を切り離して離脱したといわれています。その後引き揚げられた錨は、薩摩藩とイギリスの和解後にイギリスに返還されています。



肥後の石工岩永三五郎が築いた 石造りの突堤

ガタグチ ノ フナダマリ

46 潟口の船溜り

薩摩藩が整備した港です。五間川と二反川が合流する河口部に建設されています。凝灰岩の護岸は、肥後の石工岩永三五郎が築いたといわれています。現在は砂が溜まって川底が浅くなっていますが、当時は大船が入って積み荷を小舟に下ろしていました。そして、小舟は水路を使って内陸に運搬します。船溜りの南側には濱崎太平次の本宅や造船所があり、水路は船溜りから太平次の本宅まで延びていました。

- 指宿市(民有地)
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 〓 無
- JR指宿駅から車で8分
- 指宿港から車で5分
- 指宿ビジターセンター近くの公園に案内板あり

MAP 76P A-5



島津斉興が海商支援のため 築かせた宮ヶ浜港防波堤

47 宮ヶ浜港防波堤

捍海隄と呼ばれた防波堤・宮ヶ浜港防波堤。島津斉興が築かせた防波堤です。当時の宮ヶ浜は、指宿郷の地頭仮屋(役所)や商家群が立ち並ぶにぎやかな港町でした。また、濱崎太平次が琉球や奄美大島との海運の拠点とした港のひとつでもありました。堤防は遠浅の砂浜に船が安全に着岸できるように建設されています。長さは約220mで、根占や知林ヶ島から運んだ凝灰岩を加工し、階段状に積み上げて建設されました。近くにある指宿小学校には、防波堤建設の経緯を記した『指宿邑捍海隄記』が残されています。

- 国登録有形文化財
- 指宿市西方 宮ヶ浜地区海岸沿い一帯
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 〓 有(宮ヶ浜海岸環境施設公園駐車場)
- JR指宿駅から車で15分
- 指宿港から車で5分

MAP 76P A-5



建設の経緯を記す 宮ヶ浜港防波堤の記念碑

イブスキムラカンカイテイキ

48 指宿邑捍海隄記

宮ヶ浜港防波堤(捍海隄)の完成にともなって建てられた記念碑。記念碑には、堤防建設の経緯について次のように記されています。「宮ヶ浜の海は遠浅で、船を安全に停泊させることができず、台風で船が転覆する恐れがありました。天保4(1833)年、それを知った第27代当主・島津斉興が、長さ220m、高さ5mの防波堤を築かせました。工事は天保4年の12月にはじまり、翌年の7月には完成。宮ヶ浜港防波堤は、指宿地域最大の堤防でした。」

- 指宿市指定有形文化財
- 指宿市西方4692番地1(指宿小学校内)
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 〓 有(指宿小学校駐車場)※要許可
- JR指宿駅から車で15分
- JR宮ヶ浜駅から徒歩8分
- 見学の際や駐車場を利用する際は、指宿小学校の許可が必要です。

MAP 76P A-5



薩摩の御用商人 河野覚兵衛の屋敷跡

コウノ カクベエ ヤシキアト

44 河野覚兵衛屋敷跡

河野家は薩摩藩の御用商人として多くの大船を所有し、琉球口貿易や黒糖専売に関与したり、藩の財政再建に貢献したりしました。また、覚兵衛ら海商は奄美大島へ生活物資を運ぶなど、島民たちの生活に無くてはならない存在でした。覚兵衛は、藩からの信頼が厚く、名字帯刀を許されたり、島津斉興、斉彬が山川を視察した際には河野家に宿泊したりしたそうです。現地には地元で採掘された山川石によってつくられた、屋敷跡の石塀が残っています。山川石は、藩主の墓石など藩の重要な施設に用いられた石材です。

- 指宿市山川入船町(民有地)
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 〓 無
- JR山川駅から車で5分
- 指宿市役所山川庁舎/山川文化ホールから徒歩5分

MAP 76P A-6



薩摩の御用商人 8代目・濱崎太平次の墓

ダイハチダイハマサキタ ヘイジ ノ ハカ

45 第8代濱崎太平次の墓

- 指宿市指定史跡
- 指宿市湊2丁目4番地1(湊児童公園内)
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 〓 有(指宿ビジターセンター駐車場)
- JR指宿駅から徒歩15分
- (指宿ビジターセンター/指宿市観光協会横)

MAP 76P A-5



指宿を拠点に活躍した、第8代・濱崎太平次の墓。濱崎家は全国長者番付に載ったこともある名家の海商でした。太平次は藩の御用商人として琉球口貿易に携わり、黒糖などの藩の特産品を大坂(大阪)で販売。多額の利益をあげて藩の財政再建に貢献しました。島津斉彬は、太平次から西洋糸を贈られたことをきっかけに紡績業をはじめたといわれています。第10代太平次は、藩がイギリスからミニエー銃を購入する際に2万両、軍艦春日丸を購入する際には、購入費16万両のうち8万両の献金を行って軍備の近代化に大きく貢献。また、薩摩藩英国留学生の派遣費用の提供も。1863年に大坂で病没した第8代太平次の墓は、今も指宿に残っています。



島津斉彬が行った 治水事業をたたえる記念碑

51 掘井碑

島津斉彬は、1858年に指宿で起こった大干ばつを目的にしました。そして、これに危機感を抱くと将来の干ばつに備えるために、奉行所の役人・東郷実友(東郷平八郎の父)らに97か所の井戸を掘らせませす。翌年、東郷実友らは井戸を掘ったことを記念して掘井碑を建設。当時の井戸は明治から大正時代の耕地整理によって埋められ、1937年には碑文が読みづらくなったため新しい碑が建設されました。そのため現地には、江戸時代と昭和に建てられた新旧ふたつの碑が残っています。

- 指宿市指定有形文化財
- 指宿市東方7353(民有地)
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 無
- JR二月田駅から車で8分/徒歩15分
- 指宿神社から徒歩3分

MAP 77P E-5



島津斉彬が祟りをも 恐れず命じた農業用水路

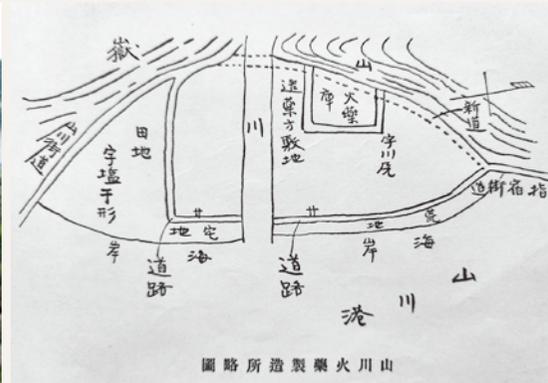
52 鳥越堀切

- 指宿市指定史跡、有形文化財
- 指宿市開闢仙田1685-6(民有地)
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 無
- JR開闢駅から車で約10分

MAP 77P E-6



水の乏しい指宿の地で新田開発を行うため、池田湖から水路を引く灌漑事業を実施した島津斉彬。工事担当の郡奉行は、水神の祟りを恐れて工事をためらいます。ところが斉彬は「水神がどうして民の利益になることを妨げようか。そのようなことは妖しい噂である。民を豊かにするための事業であることを神に告げ速やかに着手すべき」と命じました。しかし、事業は明治維新のため一時中断。1872年に再開され、莫大な工事費と作業員を投入し、1876年に完成しました。現地には池田湖の外壁を掘削した堀切と、完成を記念した「決湖碑」が残っています。



圖略所造製薬火川山

『薩藩海軍史』

薩英戦争に備えて設置された薩摩藩の火薬製造所

49 山川火薬製造所跡

- 指宿市山川町(民有地)
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 無
- JR山川駅から車で3分
- 山川火薬製造所は現存していません。

MAP 76P A-6



薩英戦争に備えてつくられた山川火薬製造所は、梅月寺付近にあったとの記録が残っていることからここが推定地とされています。火薬の原料となる硫黄や硝石、製造した火薬の海上輸送に適していた山川港近くに設置されました。硫黄は、山川から約55km南にある硫黄島から運ばれます。また、水車動力を利用するために、設置前に操業していた水車油燈所を改築して建設されたといわれています。現地には、今も火薬製造所に関連する護岸が残っています。



1659年に設置された薩摩藩の薬用植物栽培園

50 山川薬園跡

- 県指定史跡・天然記念物
- 指宿市山川町新生町35
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 有(山川文化ホール駐車場)
- JR山川駅から車で5分
- (指宿市役所山川庁舎/山川文化ホール横)

MAP 76P A-6



山川薬園は、1659年に設置された薩摩藩の薬用植物栽培園です。広さ約5,600㎡で、レイシやハズ、キコク、カンラン、リュウガンなどの薬草が数多く植えられていました。現地に残るリュウガンは推定樹齢300年以上。鹿児島県の天然記念物に指定されています。薩摩藩は山川、佐多、吉野の3か所に薬園を設置しました。なかでも山川薬園は最も古い薬園といわれています。



フランス人技師を招いて 近代化が進んだ大規模な金山

56 山ヶ野金山

宮之城領主・島津久通が1640年に発見した金山。1751～1829年の間は採金量が全国一位でした。最盛期には約2万人が働き、金山周辺には大規模な鉱山町が形成されました。江戸時代は人力による採掘や運搬が行われていましたが、幕末に島津斉彬が西欧の鉱山技術の導入をはじめ、島津忠義がフランス人技師を招き、本格的な技術導入と施設整備が実施されて近代化が進みます。江戸時代から明治30年代まで金山経営の中心地であった山ヶ野金山には、江戸期の役所跡や採掘跡、明治期の精錬所跡、搗鉱所跡など当時の盛況を偲ばせる数多くの遺産が残っています。



【明治四十一年十月 山ヶ野金山三番滝精錬所】
尚古集成館蔵

MAP 75P D-4



- 霧島市横川町上ノ
- TEL:0995-72-0582(霧島市横川地域振興課)
- 有(山ヶ野小学校跡)
- JR大隅横川駅から車で約15分
- 鹿児島空港から車で約35分



57 山ヶ野金山関連資料

- 横川郷土館
- 《開館時間》9:00～17:00
- 《休館日》日曜日、月曜日、祝日、12月29日～翌年1月3日
- 《入館料》小・中・高校生90円(70円)大学生・一般180円(140円)
- ※()内は団体10名以上

MAP 75P E-4



- 霧島市横川町中ノ192-7
- TEL:0995-72-1596(横川郷土館)
- 有
- JR大隅横川駅から車で2分(横川公民館隣)

山ヶ野金山の歴史を伝える 鉱山関連の資料

横川郷土館では、山ヶ野金山の古写真や図面、採掘道具(ツルハシ、ランプ)、金鉱石などが展示されています。江戸時代から明治30年代まで金山経営の中心地であった山ヶ野金山の歴史を学ぶことができます。

薩英戦争でイギリス艦隊を発見！ 鹿児島湾入口の見張所跡

53 五人番所跡(砲台跡)

外国船の侵入を防ぐために設置された施設は、5人体制で見張りをしていたことから「五人番所」と呼ばれていました。砲台は、山川湾への外国船侵入に備えて湾の入口に位置する五人番所と、対岸の山川郷の津口番所近くに設置されていました。薩英戦争の際は、五人番所でイギリス艦隊を発見。指宿郷の地頭仮屋(役所)に報告しています。



MAP 76P A-5



- 指宿市大渡(民有地)
- TEL:0993-23-5100(指宿市教育委員会社会教育課)
- 有
- 無
- 指宿医療センター前交差点から国道269号線を山川方面に下ると道路沿いに標識有り。標識から海岸まで徒歩5分

鹿児島湾奥に設置された 大規模な火薬製造所跡

54 敷根火薬製造所跡

高橋川左岸の土地を造成し、水車小屋や倉庫、休憩施設など22棟を建設。水車が設置され、高橋川の豊富な水を動力源として火薬を製造していました。敷根火薬製造所の設計にはイギリス人技師・ウォートルスが関わり、最新式のタービン水車などが導入されたと考えられています。原料には硫黄島や霧島の硫黄、谷山作硝局の硝石などを使用。1873年には海軍省の所管となるも、西南戦争が始まると政府軍は3月に軍艦春日を敷根に派遣して工場を焼き払われました。翌年には技術者らは目黒火薬製造所に招かれます。発掘調査では水車跡や水路、石垣、石臼が発見されました。



MAP 74P B-7



- 霧島市国分敷根(民有地)
- TEL:0995-64-0708(霧島市社会教育課)
- 有
- 無
- JR国分駅から車で約15分
- 草が茂り水路が見えにくくなっており、踏み外しやすくなっている箇所があります。見学の際は足元に注意してください。

大量の火薬製造を物語る 火薬原料加工用の巨大石臼

55 敷根火薬製造所の石臼

敷根火薬製造所で使用されていた巨大な石臼は、直径67cm、厚さ27cm、重さ240kg。地元の凝灰岩によってつくられています。火薬は硫黄や木炭、硝石の粉末を混ぜ合わせて製造されました。敷根火薬製造所では高橋川から水を引き、水車の動力を使って石臼を回して硫黄や硝石をすり潰しました。巨大な石臼は、かつて火薬製造所に大規模な設備が存在し、大量の火薬が製造されていたことを物語っています。現在、石臼は国分郷土館に保管・展示されています。



MAP 74P A-6



- 国分郷土館
- 《開館時間》9:00～17:00
- 《休館日》月曜日(祝日の場合その翌日)、12月29日～翌年1月3日
- 《入館料》小・中・高校生90円(70円)大学生・一般180円(140円)
- ※()内は団体10名以上
- 霧島市国分上小川3819
- TEL:0995-46-1562(国分郷土館)
- 有
- JR国分駅から車で10分(国分城山公園入口近く)



- 日置市指定史跡
- 日置市東市来町美山975(民有地)
- TEL:099-248-9432(日置市教育委員会)
- 無
- 鹿兒島市街より美山ICから車で3分、川内方面より国道3号線美山入口から車で3分
- JR伊集院駅からバス(鹿兒島交通)上川内/串木野行き(いずれも湯之元・串木野経由普通便)で「美山」バス停下車徒歩5分
- 柵内立入禁止。落ちていた焼物の破片も持ち帰らないでください。

MAP 77P C-1



市指定 耐火レンガの開発に貢献した 南京皿山窯跡

60 南京皿山窯跡

薩摩川内市平佐窯で修行した白欣円らが、天草陶石を用いて染付茶碗や皿など、主に日用食器を焼いていました。天草陶石は、熊本県天草下島で産出され、1300～1400度の高温で焼く磁器の原料として使われていました。高温に強い天草陶石を利用した窯業技術が、反射炉に使用する耐火レンガの製造に応用されたと考えられています。現地には、2基の窯跡が残っており、東側の窯跡の大きさは、平成22年の調査により長さ約25m、幅約5mと推測されています。



『薩摩焼絵付図面』沈家伝世品収蔵庫蔵

12代・沈壽官が製作した薩摩焼の下絵図面。1891年にロシアのニコライ皇太子(後の皇帝・ニコライ二世)と、ギリシアのゲオルギウス皇太子が鹿兒島を訪問した際、島津忠義が進呈した大花瓶のために作図されたものです。これは薩摩焼の評価が海外で最も高かった時代の下絵図面であるといえます。また、集成館事業における薩摩焼の研究や開発、技術の高さを知ることのできる貴重な資料でもあります。

■ 沈家伝世品収蔵庫
《営業時間》9:00～17:00 《休館日》第1、3月曜日
《入館料》大人500円、中学生以下無料

- 日置市東市来町美山1715(沈家伝世品収蔵庫)
- TEL:099-248-9432(日置市教育委員会)
- 有(沈壽官窯駐車場)
- 鹿兒島市街より美山ICから車で3分
- 川内方面より国道3号線美山入口から車で3分
- JR伊集院駅からバス(鹿兒島交通)上川内/串木野行き(いずれも湯之元・串木野経由普通便)で「美山」バス停下車すぐ

MAP 77P C-1



薩摩焼が誇る！ 島津忠義が ロシア皇帝に進呈した大花瓶の下絵図面

61 薩摩焼絵付図面



- 日置市日吉町吉利4329(吉利地区公民館)
- TEL:099-248-9432(日置市教育委員会)
- 有(吉利地区公民館内)
- JR伊集院駅からバス(鹿兒島交通)加世田・枕崎行き(さつま湖・伊作 田之野経由普通便) / 加世田行き(さつま湖・伊作経由普通便) / 伊作行き(吉利・永吉麓・小野経由普通便)で「吉利農協前」バス停下車徒歩7分

MAP 77P C-2



小松帯刀が執務を行った 吉利御仮屋跡

ヨシトシオカリヤアト

62 吉利御仮屋跡

小松帯刀清康は島津斉彬の命で小松家に婿入りし、斉彬の没後、島津久光の側役となり、28歳の若さで薩摩藩の家老に抜擢されました。その後、さまざまな役職を兼務し、藩政の中心人物に。そして、藩主・島津忠義を補佐して集成館を再建。西郷隆盛や大久保利通など有能な人材を重用し、1866年には坂本龍馬立ち会ひのもと薩長同盟を成立させました。帯刀は、吉利郷の御仮屋に足を運び、不正の取り締まりや領民の生活向上に努め、名君と呼ばれます。御仮屋跡には、小松帯刀の像などが建っています。



『水天淵発電所』尚古集成館蔵

近代化を図る金山のために建設された水力発電所

58 水天淵発電所

- 霧島市準人町松永
- 無
- TEL:0995-64-0708(霧島市社会教育課)
- JR国分駅から車で約20分
- 発電所内、立入禁止

MAP 74P A-5



1903年、第7代鉱業館長に就任した五代龍作(五代友厚の娘婿)は、山ヶ野金山の大規模な近代化を図りました。その一環として、金山から約30km離れた天降川沿いの水天淵に発電所を建設すると、金山の設備を電力に切り替えました。発電所はヨーロッパ風の石造建造物で、昭和58年まで使用されていました。その後、解体されましたが、現在も屋根の一部が記念碑として仙巖園に保存されています。



59 大田発電所

- 国登録有形文化財
- 日置市伊集院町大田3109-1
- TEL:099-248-9432(日置市教育委員会)
- 無
- 鹿兒島市街より美山ICから車で10分
- 川内方面より国道3号線美山入口から車で10分
- JR伊集院駅からバス(鹿兒島交通)上川内/串木野行き(いずれも湯之元・串木野経由普通便)で「大田下」バス停下車徒歩15分
- 発電所内、立入禁止

MAP 77P C-1



国登録 串木野芹ヶ野金山のための 大田水力発電所

大規模な金山の近代化を図った五代龍作(五代友厚の娘婿)が、串木野芹ヶ野金山に電気を供給するために建設させた発電所です。当初の出力は250kWで、神之川の水力と落差を利用して発電を行いました。ヨーロッパ風の石造建造物で、南側には六角形の塔がついていて、屋根壁中央には島津家の家紋が施されています。島津家が建設した発電所のうち、唯一、明治期の姿を留めている発電所でもあります。



- 南九州市知覧町郡17880番地(ミュージアム知覧)
- TEL:0993-83-4433(南九州市役所文化財課)
- 有(ミュージアム知覧駐車場)
- 南九州市役所から車で約5分(知覧特攻平和会館隣)

MAP 77P D-4



伝統的な薩摩の製鉄の 出土品の数々

66 厚地松山製鉄遺跡出土品

ミュージアム知覧では、南薩地域の製鉄遺跡の解説や製鉄作業で排出された鉄滓、炉の送風管として使われたフィゴの羽口を見学することができます。

- ミュージアム知覧
- 《開館時間》9:00~17:00
- 《休館日》水曜日(祝日を除く)、12月29日~31日、7月1日~3日
- 《入館料》大人300円、小人200円
- 知覧特攻平和会館との共通券:大人600円、小人400円



- 南九州市知覧町塩屋(西塩屋)
- TEL:0993-83-4433(南九州市役所文化財課)
- 無
- JR指宿枕崎線薩摩塩屋駅から車で約5分
- 遺構は確認されていません。

MAP 77P D-5



外国船侵入を防ぐ 知覧塩屋砲台跡地

67 知覧塩屋砲台跡

知覧塩屋砲台は、永沢川河口部の左岸付近にあり、五百匁砲が配備されていたと伝えられています。西塩屋浦は薩摩藩公認の商業地区(浦町)であり、藩の役所が置かれていて、江戸時代から明治にかけて海運や商業の町として栄えていました。幕末、藩は財政再建のため菜種の増産に取り組み、西塩屋浦には菜種栽培に不可欠な獣骨肥料の配給所が置かれました。砲台は、海運・商業の中心地であった西塩屋浦への外国船侵入を防ぐために設置されたと考えられています。なお、砲台は昭和40年頃の堤防工事で取り壊されてしまいました。



- 南九州市顛娃町別府(石垣)
- TEL:0993-83-4433(南九州市役所文化財課)
- 無
- JR指宿枕崎線石垣駅から車で約5分
- 遺構は確認されていません。

MAP 77P D-5



外国船の侵入から防衛 顛娃別府の砲台跡

68 顛娃別府砲台跡

『薩藩海軍史』には、6ポンドカノン1門、700目野戦砲2門、500目野戦砲2門、石垣野戦砲3門が備えられていたと記されています。砲台のほかには火薬を保管する煙硝倉が設置され、石垣川河口部の左岸丘陵付近にあったといわれていますが、具体的な場所は不明です。石垣浦は、薩摩藩の米倉や御高札場が設置された重要な港町。砲台は石垣浦への外国船侵入を防ぐために設置されたと考えられています。御高札場は藩や領主からの法令や決まり事を書き記した木の札(高札)を掲示した施設で、人通りの多い要所などに設置されていました。



パリ万博博覧会に出品！ 薩摩焼を仕上げた御用窯跡

ゴジョウシキガマアト

63 御定式窯跡

藩が使用する焼物を焼いていた藩の御用窯。この窯で錦手主取となった朴正官は、島津斉彬の命を受けて薩摩焼の技術の改良に取り組みました。正官は、金を盛り上げて焼き付ける金高盛りの技術や、新たな絵具の開発を行います。そして、金を多用した繊細で華やかな薩摩焼「金欄手薩摩」を完成させました。1867年のパリ万国博覧会では、正官らが御定式窯で焼いた「錦手大花瓶」が、欧米から高く評価されたといわれています。現地には今もなお2基の窯跡が残っています。



- 県指定史跡
- 日置市東市来町美山974外(民有地)
- TEL:099-248-9432(日置市教育委員会)
- 無
- 鹿児島市街より美山(Cから車で3分、川内方面より国道3号線美山入口から車で3分)
- JR伊集院駅からバス(鹿児島交通)上川内/串木野行き(いずれも湯之元・串木野経由普通便)で「美山」バス停下車徒歩5分
- 柵内立入禁止。落ちている焼物の破片も持ち帰らないでください。

MAP 77P C-1



集成館の高炉で使用する 砂鉄を採取した海岸

64 顛娃砂鉄採取地

江戸時代の知覧地域では、主に顛娃の海岸から砂鉄を採取し、盛んに製鉄を行っていました。特に、顛娃村矢越の浜の砂鉄は良質であると有名で、厚地松山製鉄遺跡のほか、集成館にも運ばれて高炉製鉄の原料に使われていました。砂浜には砂鉄が集中する場所があると見られ、砂浜を掘って砂鉄の層を探したといわれています。また、矢越の浜へ向かう道の途中には、砂浜を見守る神様である「砂鉄の神様」が祀られています。



- 南九州市顛娃町御領(矢越)
- TEL:0993-83-4433(南九州市役所文化財課)
- 無
- JR指宿枕崎線御領駅から車で約5分

MAP 77P D-5



高炉操業を可能にした 薩摩の製鉄炉

65 厚地松山製鉄遺跡

厚地松山製鉄は、厚地川上流一帯に広がる江戸時代の大規模な製鉄所でした。顛娃の矢越の浜から砂鉄を選び、炉への送風機に水車動力を活用して製鉄を行っていました。発掘調査では、水車を回す水車跡や製鉄炉、鍛冶炉が発見されています。水車を動力とし、炉の構造が背の高い石組み炉である点が共通していることから、集成館の高炉建設にこれらの在来技術が応用されたといわれています。現地には、今も製鉄によって排出された大量の鉄滓(てつさい)が残されています。



- 県指定史跡
- 南九州市知覧町厚地656番地(民有地)
- TEL:0993-83-4433(南九州市役所文化財課)
- 無
- 南九州市役所から車で約10分

MAP 77P D-4





反射炉へ鉄を供給した 鍋倉製鉄所跡

71 鍋倉製鉄所跡

鍋倉製鉄所は在来の製鉄技術で鉄を製造する施設で、製鉄炉は2基か3基ありました。1基は島津斉彬が母の実家、鳥取藩主・池田家に依頼して築いた、たたら製鉄炉。砂鉄も山陰などから取り寄せられていました。もう1基ないし2基は、薩摩在来の背の高い石組製鉄炉で、喜入や知寛、今和泉、山川の海岸砂鉄を原料として製鉄を行っています。なお、1867年に洪水の被害を受けて、1868年に廃止されました。製鉄所跡は、別府川左岸の旧あいら温泉センター東側一帯と推測されており、周辺では今も鉄滓が出土します。

- 始良市鍋倉(民有地)
- TEL:0995-62-2111(始良市教育委員会)
- 〓 無
- JR加治木駅から車で10分
- 鍋倉製鉄所は現存しておらず、標柱や説明板等も設置されていません。

MAP 75P D-6



『薩州鹿兒島見取絵図』武雄鍋島家資料 武雄市蔵



外国船侵入を防衛する松ヶ浦砲台跡

69 松ヶ浦砲台跡

- 南九州市知覧町南別府(松ヶ浦)
- TEL:0993-83-4433(南九州市役所文化財課)
- 〓 無
- JR指宿枕崎線松ヶ浦駅から車で約5分

MAP 77P D-5



「台場鼻」と呼ばれる港の東側にある小さな岬に設置された松ヶ浦砲台。五百匁砲(砲弾重量約1.8kg)が配備されていたと伝えられています。松ヶ浦は薩摩藩公認の商業地区(浦町)で、藩の役所が置かれていました。そして、江戸時代から明治にかけて海運や商業の町として栄えていたといわれています。砲台は、海運・商業の中心地であった松ヶ浦への外国船侵入を防ぐために設置されたと考えられ、砲台の場所は北山神社西側の雑木林のあたりとされていますが遺構は不明です。



72 森山家住宅土蔵・主屋・旧作業場

国登録 集成館から移築されたと伝わる 鋳物工場

薩摩藩御用達の鋳物師であった森山家の本宅。森山家は、鍋釜などの製造が盛んであった加治木にて、藩に納める茶釜や、奄美の黒糖生産に必要な大鍋や機械類を鋳造していました。島津斉彬は、森山家に江戸の鋳物職人・西村道也を招き、藩のための大砲生産や鋳銭事業の技術指導を行わせます。道也は反射炉建設にも参加し、炉内の湿気対策に使った鍋を鋳造。現地には、1904年に建てられた土蔵と主屋、集成館から移築されたと伝わる旧作業場が保存されています。

- 国登録有形文化財
- 始良市加治木町朝日町172
- TEL:0995-62-2111(始良市教育委員会)
- 〓 有
- JR加治木駅から徒歩約10分
- 内部の見学をする際には、見学希望日の2週間前までに始良市教育委員会社会教育課文化財係への申請が必要です。

MAP 75P E-6



市指定 山ヶ野金山の運搬道にかけられた 美しいアーチの石橋

70 金山橋

金山橋は凝灰岩で建設された美しいアーチ形の石橋で、長さ22.6m、幅4.2m、川からの高さは約10m。島津家は幕末にフランス人技師のコワニエを雇い、山ヶ野金山の近代化に着手しました。コワニエが去った後、1878年にオジェが雇われると近代化事業を継続。オジェが行った金山の近代化事業は、鹿兒島県の年間予算に匹敵する20万円が投じられました。その一環で山ヶ野から加治木港までの馬車道も整備。金山橋は、この馬車道整備に伴い、網掛川にかけられたものです。橋の近くには、当時の馬車道とみられる旧道が残っています。

- 始良市指定有形文化財
- 始良市加治木町小山田34-1
- TEL:0995-62-2111(始良市教育委員会)
- 〓 有
- JR加治木駅から車で約15分

MAP 75P E-6





明治日本の近代化を牽引し 不平等条約の改正に挑んだ 寺島宗則が幼少期を過ごした旧宅

マツキコウアン(テラシマムネノリ)キョウカ

76 松木弘安(寺島宗則)旧家

松木弘安は出水郷脇本の郷士長野野右衛門の次男として生まれ、5歳の時に松木家の養子となりました。長崎や江戸で蘭学や医学を学び、集成館事業では反射炉の建設や電信実験、綿火薬の開発、ガス灯研究など幅広く活躍。1865年には、薩摩藩英国留学生とともにイギリスに渡り、幕府の貿易独占を排除するためイギリス外務省へ協力要請を行いました。明治以後は、「寺島宗則」と改名し、神奈川県知事を務めた際には、国内外の電信政策を推進し、「電気通信の父」と呼ばれました。明治政府では外務卿、文部卿、元老院議長を歴任し、日本外交の近代化と不平等条約改正に尽力しました。

■ 松木弘安(寺島宗則)旧家
《営業時間》10:00～17:00
《休館日》火曜日(祝日の場合その翌平日)、12月29日～翌年1月3日
《入館料》無料

- 阿久根市指定史跡
- 阿久根市脇本8978-1
- TEL:0996-73-1114(阿久根市商工観光課)
- 有
- 肥薩おれんじ鉄道折口駅から車で約10分
- 肥薩おれんじ鉄道折口駅下車
長島方面行バスで「壱町」バス停下車すぐ

MAP 76P E-3



鹿児島県歴史・美術センター黎明館蔵



『薩摩藩英国留学生』鹿児島県立図書館蔵

77 留学生渡欧の地



- いちき串木野市指定史跡
- いちき串木野市羽島4930番地
- TEL:0996-21-5128
- いちき串木野市教育委員会
- 有(ビジターセンター駐車場)
- JR串木野駅から車で20分

MAP 78P E-7



薩摩藩英国留学生が 出航した羽島の港

羽島の港は、甌島出張に見せかけて密かに渡欧する条件を備えていました。留学生たちは羽島の藤崎家、川口家に2か月間滞りながら勉強しながらイギリス行きの船を待ちます。1865年4月17日、トーマス・グラバーが手配した蒸気船「オーストラライエン号」が羽島沖に到着。翌日、留学生を乗せて出航、約2か月後にロンドンに到着しました。港は享保年間(1716～1735)に薩摩藩が整備し、1848年に治水工事を行った西郷隆盛らが改築に関わったと言われています。現地には、「西郷さんの玉石垣」と呼ばれる堤防や、薩摩藩英国留学生記念館もあります。



島津斉彬が建設した製糖工場

78 坊津白糖製造工場跡

島津斉彬が白糖を製造するためにつくられた工場でしたが、斉彬の急死によって廃止されました。工場近くに荷下ろしを行う船着き場がありましたが、1890年の台風によって流失しました。現地には、今も白糖製造工場に関連する、高さ約2mの凝灰岩の石積が残っています。



MAP 77P B-5



- 南さつま市坊津町坊(民有地)
- TEL:0993-67-1441(南さつま市坊津支所)
- 有
- JR枕崎駅から車で約20分

鹿兒島湾の入口を防衛 久志砲台跡

74 久志砲台跡

『薩摩海軍史』には野戦砲3門が配備されていたと記されています。また、現地には海岸の岩礁の上に、砲台の護岸と考えられる凝灰岩の石積が残っています。久志集落には薩摩藩の御飯屋(役所)や、馬の放牧場のほか多くの寺院などがあり、砲台は久志湾への外国船侵入を防ぐために設置されたと考えられています。同時期、南さつま市には坊津や秋目にも砲台が建設されましたが、残っているのは久志砲台のみです。



MAP 77P B-5



- 南さつま市坊津町久志
- TEL:0993-67-1441(南さつま市坊津支所)
- 有
- JR枕崎駅から車で約25分

薩摩藩の初期の砲台 枕崎湾を防衛した枕崎砲台

75 枕崎砲台跡

枕崎湾の防衛のために設置された砲台・枕崎砲台。山川港に設置された松山砲台とともに、薩摩藩が設置した初期の砲台のひとつです。『薩摩海軍史』には6ポンドカノン砲2門、20ドイム臼砲1門、700目野戦砲1門、500目野戦砲1門が配備されていたと記録されています。初期の台場は、敵の砲撃から兵士や大砲を守る胸壁をもたない簡単なつくりでした。また、設置された大砲も小型の和式砲であったと推測されています。戦後、港の整備が進められ、現在は台場公園となっています。



MAP 77P C-5



- 枕崎市恵比須町235
- TEL:0993-72-2221(枕崎市教育委員会)
- 有(台場公園駐車場)
- JR枕崎駅から徒歩15分
- 枕崎砲台跡は現存しておりません。



- 垂水市牛根麓臨田(民有地)
- TEL:0994-32-7551(垂水市教育委員会)
- 無
- 桜島フェリー-桜島港から車で約20分
- 垂水フェリー-垂水港から車で約20分

MAP 76P B-2



洋式船を造船するために建設 波穏やかな牛根造船所跡

81 牛根造船所跡

波が穏やかな鹿児島湾奥の牛根麓に建設された造船所。島津斉彬は1853年、幕府の大船建造の解禁を願い出ます。そして、幕府がこれを認めると洋式帆船12艘、蒸気船3艘の建造計画を発表。牛根造船所では本格的な洋式帆船である鳳瑞丸と万年丸の建造がスタートしました。両船は全長約36m、推定排水量600トンで、大砲12門を備えた軍艦であったといわれています。鳳瑞丸と万年丸は、それぞれ1855年に完成。鳳瑞丸は幕府に売却されました。跡地の一部は新たに造船工場が建てられています。周辺の畑では釘や鉄滓などの遺物が出土します。



- 奄美市名瀬矢之脇町(民有地)
- TEL:0997-54-1210(奄美市文化財課)
- 無
- 奄美市役所から徒歩10分
- 遺構は残っていません。

MAP 79P D-4



最新技術を導入して建設 金久白糖製造工場跡

82 金久白糖製造工場跡

薩摩藩の御仮屋(役所)に隣接する海岸近くに建設されて、1866年から3年間操業した金久白糖製造工場。敷地は大規模で、奄美大島にある4つの工場の中心でした。建物の規模は不明ながら煙突が2本設置され、うち1基は蒸気機関用であったといわれています。建物は2階建てと考えられ、板壁で、屋根には亜鉛葺き鉄板が用いられ、29名以上の作業員が働いていました。工業用水の確保のために、井根川や腰又川から水を引いて貯水池がつけられていました。工場の廃止後、建物の基礎に使用された凝灰岩の切石は民家や奄美市立名瀬小学校の石段等に転用され、今でも見ることができます。



- 奄美市名瀬町金久
- TEL:0997-54-1210(奄美市文化財課)
- 無
- 奄美市役所から徒歩10分
- 遺構はなく、付近は公園になっています。

MAP 79P D-4



白糖製造工場を建設した イギリス人技師らの宿舎跡

83 蘭館山

白糖製造工場の建設に関わったイギリス人建築技師のトーマス・ウォートルスと、白糖製造技師のマッキンタイラーの宿舎跡。宿舎は白ペンキ塗りの洋館で、白糖工場や名瀬湾を一望できる山頂に建設されました。洋館は島の人から「蘭館」と呼ばれ、この山は「らんかん山」と称されるように。その後、ウォートルスは明治政府に雇用されて東京・銀座の煉瓦街や、大阪造幣寮等の設計を行い、日本近代建築を牽引する人物となります。白糖工場はウォートルスが建設した近代建築の第1号で、ウォートルスとシマの恋人・マシユの別れを唄ったとされるシマ唄も残っています。

薩摩藩が管理していた軍港

グミザキグンコウアト

78 久見崎軍港跡

1597年に慶長の役がはじまると、島津義弘はここから50艘あまりの軍船を率いて朝鮮へ渡海しました。江戸時代には、役所(御船手)が置かれて軍船が管理され、参勤交代や船船取締などを担っていました。久見崎軍港で船大工をしていた二ノ方良右衛門は、桜島の瀬戸村造船所における洋式帆船「昇平丸」の建造に関与した人物で、後に幕府が創設した長崎海軍伝習所に派遣されて航海術などを学びました。軍港は、昭和37年の河川改修によってほとんどが埋め立てられたとされています。軍港跡の一部はハマボウの自生地となっており、市の天然記念物に指定されています。



- 薩摩川内市久見崎町宇諏訪後
- TEL:0996-22-7251(薩摩川内市教育委員会社会教育課)
- 有(久見崎公園駐車場)
- 南国交通バス(路線番号111)高江・土川線「川内駅」で乗車後「久見崎入口」バス停下車(約40分)

MAP 78P E-6



集成館の高炉で使用する 砂鉄を採取した夏井海岸

79 志布志砂鉄採取地

江戸時代から明治時代の志布志地域では、夏井海岸から砂鉄を採取し、盛んに製鉄を行っていました。夏井海岸から採取された砂鉄は、山間部のたたら製鉄所に運ばれて製鉄に利用されていました。志布志のたたら製鉄所で作られた鉄は、集成館にも運ばれて高炉製鉄の原料に使用されていました。



- 志布志市志布志町帖(鹿児島県、民有地)
- TEL:099-472-1111(志布志市教育委員会(市役所代表))
- 無
- JR志布志駅から車で5分+徒歩

MAP 76P E-2



刻印がある蒸気機関 集成館機械工場で製造

80 集成館製蒸気機関

集成館製蒸気機関は製造年代は不明ですが、シリンドラーヘッドに「鹿児島機械集成館製」の刻印があります。1917年に焼酎醸造会社の岩川醸造が入手し、昭和30年代中ごろまでは緊急時の発電に使われていました。現在は大隅郷土館に寄託され保管、展示されています。大型ボイラーや復水器、ポンプなどが失われているため使用することはできませんが、当時の蒸気機関を知ることのできる貴重な資料のひとつです。



- 大隅郷土館
- 《開館時間》9:00~18:00
- 《休館日》月曜日(祝日の場合、その翌日)、第3水曜日、12月28日~翌年1月4日
- 《入館料》無料

- 曾於市大隅町中之内9146(大隅郷土館)
- TEL:0986-76-8873(曾於市教育委員会)
- 有
- 曾於弥五郎ICから車で10分

MAP 76P E-1





未完成のままに終わる 金山用の水力発電所跡

86 観音滝発電所跡

鉱山機械の動力を蒸気機関から電気に切り替えるため、さつま町観音滝に計画された水力発電所。1898年に建設が始められたものの、観音滝の水力が少なく十分な発電量が得られないと判断され、工事は中止されました。しかしながら、1907年に霧島市単人に水天淵発電所が建設。観音滝の上流に堰をつくって取水し、水路とトンネルで崖上の放水路まで運びます。高さ約20mの崖の斜面を利用して水車を回し、発電を行う仕組みでした。観音滝公園内には2条の放水路、中津川には堰や取水口が残っています。

- さつま町永野(民有地)
- TEL:0996-53-1732(さつま町教育委員会)
- 有(観音滝公園駐車場)
- 九州自動車道横川ICから国道504号線→国道403号線(約15km:20分)
- 現在観音滝公園は閉鎖されているため公園内は立ち入り禁止となっています。

MAP 75P D-3



84 永野金山

- さつま町永野(民有地)
- TEL:0996-53-1732(さつま町教育委員会)
- 有(金山公民館)
- 鹿児島市から(約50km:70分)...
- 九州自動車道横川IC→県道50号線
- 薩摩川内市から(約40km:60分)...
- 国道267号線→国道504号線→県道50号線
- 出水市から(約43km:60分)
- 国道328号線→国道504号線→県道50号線
- 鹿児島空港から(約25km:30分)
- 国道504号線→県道50号線
- 金山公民館周辺には整坑跡、坑口、坑道など金山関連の施設跡が残っていますが、各施設跡内部への立ち入りは危険ですので禁止です。

MAP 75P D-3



薩摩藩が近代化を進めた 金山と多くの遺産群

宮之城領主・島津久通が、1640年に発見した山ヶ野(永野)金山。現・霧島市横川町上ノ山ヶ野とさつま町永野をまたぐ大金山です。1904年、第7代・鉱業館長となった五代龍作(五代友厚の娘婿)は、莫大な予算を投じて大規模な近代化に着手。1907年に永野に最新式の三番滝製錬所を築きます。さらに、胡麻目坑の掘進、三番滝整坑の開削なども実施。第8代・鉱業館長の西郷菊次郎(西郷隆盛の長男)は、永野に夜学校を開校し、人材育成に尽力しました。今も1904年以降に建設された坑道跡やトロッコ跡、鉱業館跡などの遺産が残っています。



薩摩藩がつくった 日本最南端の薬園

87 佐多旧薬園

- 国指定史跡
- 南大隅町佐多伊座敷
- TEL:0994-24-3164(南大隅町教育委員会)
- 有
- 南大隅町役場から車で約25分

MAP 76P B-7



広さ約3,000㎡で、薬園の中で唯一当時の姿が残っています。設置年代は明らかではありませんが、1687年にリュウガンを植えたという記録が残されています。藩が1843年に編纂した三国名勝図会には、「伊座敷村は藩の最南端に位置し、寒さに弱い植物が良く成長するので、薬園を設置して珍しい薬草や果物(中国や東南アジア産の植物)を植えた。この薬園は日本に生育していない草木が成長するので真に貴重な薬園である」と記されています。また、園内のリュウガンやレイシは、江戸時代に植えられた母木の子孫で植物学的にも重要なものとされています。

島津斉彬が篤姫に、この薬園のリュウガンをハチミツ漬けにして贈ったとされています。



金鉱石を効率的に運搬するための鉄橋跡

85 鉄橋跡(永野金山)

- さつま町永野(民有地)
- TEL:0996-53-1732(さつま町教育委員会)
- 有(金山公民館)
- さつま町宮之城方面から県道50号線を霧島市方面へ。鉱業館前通過後、右折し約200m
- 見学する際は、留意事項等をQRコードで確認してください。

MAP 75P D-3



金山で使用するための鉱石を、鉄道で三番滝製錬所に運搬するために建設された鉄橋跡。1904年に第7代・鉱業館長に就任した五代龍作(五代友厚の娘婿)は、胡麻目坑口から三番滝製錬所までレールを敷き、鉱石を鉄道(馬でトロッコをけん引)で運ぶようにしました。途中には九郎太郎川があり、ここに橋脚の高さ24mの木橋を架けます。第8代・鉱業館長の西郷菊次郎(西郷隆盛の長男)は、1914年、この木橋を鉄橋に改修しました。この橋は、当時県内で最も高い鉄橋でした。鉄橋本体は残っていませんが、今も凝灰岩の切石で建設された橋脚が残っており、当時の建築技術の高さを物語っています。



- 南大隅町佐多伊座敷
- TEL:0994-24-3164(南大隅町教育委員会)
- 〓 無
- 南大隅町役場から車で約25分
- 現在は場所が不明となっています。

MAP 76P B-7



3門の砲があったと伝わる 伊座敷砲台跡

90 伊座敷砲台跡

対岸に設置された山川の砲台とともに、鹿児島湾に侵入する外国船に備えて設置されました。『薩藩海軍史』には3門の砲があったと記されています。当初、上之園川右岸の海岸近くに設置されていましたが、昭和21年の台風の際に大波によって破損したと伝えられています。



- 肝付町南方2636-1付近
- TEL:0994-65-2594(肝付町教育委員会)
- 〓 有(内之浦銀河アリーナ駐車場)
- 肝付町役場内之浦総合支所から徒歩約3分

MAP 76P F-5



内之浦湾の防衛のために設置 砂浜にある内之浦砲台跡

91 内之浦砲台跡

内之浦砲台は、海岸近くの砂浜に設置されています。『薩藩海軍史』には、12ポンドカノン砲1門、20ドラム白砲1門、700目野戦砲1門、500目野戦砲1門の計4門の大砲が配備されていたと記されています。明治初期の絵図には、砲台とみられる範囲が描かれており、現地に残る土塁はこれと一致する可能性があります。



- 錦江町馬場1132-1付近(錦江町、民有地)
- TEL:0994-22-0517(錦江町教育委員会)
- 〓 無
- 錦江町役場から車で約10分

MAP 76P C-5



薩英戦争に備えてつくられた 臨時の砲台跡

92 松崎砲台跡

松崎海岸後方の砂丘地に薩英戦争に備えて建設された臨時の砲台。大砲3門が25m置きに設置されたと記されています。現地には凝灰岩の切石を3段積んでつくれた、長さ13m、高さ1.3mの石積が残っており、これらは砲台の一部という可能性があります。対岸には、1844年に砲台が設置された指宿の名所・知林ヶ島を見ることができます。



鹿児島湾の防衛のために設置 辺田海岸の砲台跡

88 根占原台場跡

設置当時は、鹿児島湾の防衛のために設置されたものの、大砲1門を備えるのみの小規模な砲台でした。しかし、1862年の生麦事件後、イギリス艦隊に備えて拡張工事が行われ、現在の姿となりました。敵の砲撃から兵士や大砲を守る胸壁、火薬を保管する煙硝倉が建設されました。胸壁は長さ約50m、高さ約2mあり、海岸の花崗岩を積んでつくられていて、弾丸が発射される砲門部分が2か所残っています。発掘調査によって、大砲を据えた砲座の痕跡が確認されています。

- 県指定史跡
- 南大隅町根占辺田
- TEL:0994-24-3164(南大隅町教育委員会)
- 〓 有(台場公園駐車場)
- 南大隅町役場から車で約10分

MAP 76P C-6



89 瀬脇砲台跡

- 南大隅町根占川南
- TEL:0994-24-3164(南大隅町教育委員会)
- 〓 無
- 南大隅町役場から徒歩約15分

MAP 76P B-5



約170人の藩士が守った瀬脇砲台の跡

雄川の河口部左岸にある小さな岬に設置された瀬脇砲台。設置当時は大砲1門が配備された小規模な砲台でしたが、薩英戦争の直前に拡張工事が行われると現在の姿になりました。薩英戦争時には、田代や大始良、小根占郷から約170名の藩士が集められ守りを固めます。けれども、イギリス艦隊との交戦はなかったとされています。現地には敵の砲撃から兵士や大砲を守る胸壁が、今も残っています。胸壁は長さ約23m、高さ約2m。弾丸が発射される砲門部分が残っています。